

## 自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号 : 34506  
研究種目 : 基盤研究 (C)  
研究期間 : 2008~2012  
課題番号 : 20604008  
研究課題名 (和文) 日本とオーストラリアにおける子育て期の仕事と生活の再構築に関する比較研究  
研究課題名 (英文) A Comparative study on the restructuring of work and life during the child-rearing period in Japan and Australia  
研究代表者  
中里 英樹 (Nakazato Hideki)  
甲南大学・文学部・教授  
研究者番号 : 10309031

研究分野 : 時限

科研費の分科・細目 : 社会秩序学

キーワード : (1) ワーク・ライフ・バランス (2) 仕事と生活 (3) オーストラリア (4) 父親  
(5) 子育て (6) 労働 (7) 国際研究者交流 (8) ジェンダー

### 1. 研究計画の概要

本研究は、子育て期の仕事と生活をめぐる社会的な秩序の新たな方向を探ることを目的としている。具体的には、次のような課題を設定し、公共利用のパネルデータを用いた統計分析とインタビュー、国政選挙をめぐるキャンペーンや世論の動向に関する資料の収集などによって日豪両国の状況を比較考察する。(1)日豪それぞれにおいて、父親母親それぞれのストレスあるいはウェルビーイングと、仕事と生活の関係のありかたとの関連を明らかにし、その違いを探る。(2)日豪それぞれにおいて生活時間配分の規定要因を明らかにし、比較する。とりわけ、夫の労働時間の短縮を可能にする職場や家庭の状況、収入や支出のあり方に注目する。家庭の状況については、家や車の修繕や庭の整備など、家でなされる無償労働のありかた、育児支援の活用や余暇のありかたなど、いわゆる家事や育児以外の側面にも注意を払う。(3)適正労働時間の境界点を見だし、それを維持するための労働時間規制のありかたを探る。

### 2. 研究の進捗状況

(1)ウェルビーイングと、仕事と生活の関連については、オーストラリアにおける公共利用パネル調査(HILDA)のデータを用いて、出生行動への、夫婦の就業および家事・育児の状況の影響に関する分析を行い、妻自身の就業時間や(妻がフルタイム就労の場合に)夫の

子育て時間が第2子出生タイミングに影響をおよぼすという知見を得た。日本については同様の統計的分析を準備中である。

(2)職場と家庭の状況と、仕事と生活の調和をサポートするしくみについては、両国におけるインタビューおよび資料収集によって、共通点と相違点を見いだすことができた。知見の一つとして、オーストラリアにおける子育て支援のサービスおよび情報の体系的・統合性の高さがあげられる。また、オーストラリアでは、子育てや生活全般についての国家レベルでの経済的支援策によって、父親が家庭生活を優先するための転職を決断することが容易になっていることもうかがえた。

(3)適正労働時間と労働時間規制については、オーストラリアにおける先行研究の整理・(翻訳)紹介を行い、さらに政権交代後の変化について資料を集め情報を整理した。先行研究では、労働時間は重要であるが、どのような精神・身体状況をもたらす労働であるかという労働の質や時間帯も重要であることが示されている。

### 3. 現在までの達成度

(2)おおむね順調に進展している。

計画していた仕事と生活の多様な側面についての調査・分析は、複数の研究手法を用いて進めることができた。ただし、現在のところインタビューの人数も限られており、仮説的な知見を得た段階である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

本年9月よりオーストラリアに1年間の滞在を予定しており、その間に集中的にオーストラリアの研究を進め、比較可能な形でこの期間の前後および途中で日本に関する研究も進める。具体的には次のような複数の課題に取り組む。

(1) オーストラリアにおける第2子出生と夫婦の仕事と生活の状況の関連について、最新のパネルデータを用いて、すでに行った分析の検証を行う。また日本のデータを用いて同様の分析を行い、比較する。

(2) 両国において子育て支援の制度の利用状況とその効果についてインタビューを行い、子育て期の家族にとっての制度の実質的な意味を比較する。

(3) 最後に、これまでの研究を総括して、今後日本において進める仕事と生活の再構築の方向性について考察する。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 中里 英樹, 2011, 「オーストラリアの統合的子育て支援 -- 南オーストラリア州における「子どもセンター」事業と連邦政府による経済的支援を中心に」『甲南大学紀要文学編』161 pp.123-131. (査読・無)
- ② 中里 英樹, 2011, 「『ワーク・ライフ・バランス』を超えて--仕事と生活の統合モデルから見る子育て(2010年度公開シンポジウム報告 父親の子育て 母親の子育て)」『心の危機と臨床の知』12 pp.33-43. (査読・無)
- ③ 中里 英樹, 2010, 「子育てをめぐる母親の困難の要因と諸条件の地域差--兵庫県における事例から(人権に関する[兵庫]県民意識調査結果の分析)」『研究紀要』11 pp.45-59. (査読・有)
- ④ Hideki Nakazato, 2009, "Effects of work-life harmonization on the birth of a second child in Australia: An event history analysis using HILDA data." pp. 1-20, *The HILDA*

*Survey Research Conference 2009 Proceedings*, Melbourne, <http://www.melbourneinstitute.com/hilda/Biblio/conf2009papers.htm>.

(査読・無 Abstractによる選抜あり)

[学会発表] (計2件)

- ① Hideki Nakazato, 2009, "Effects of work-life harmonization on the birth of a second child in Australia: An event history analysis using HILDA data." *The HILDA Survey Research Conference 2009*, Melbourne, (2009-7-16 ~17)
- ② 中里 英樹, 2008, 「オーストラリアにおける「夫婦」の就業状態および家事・育児参加が出生に与える影響: 公共利用パネルデータHILDAを用いた予備的考察」日本人口学会関西支部会 (2008-11-29)

[図書] (計4件)

- ① バーバラ・ポーコック, 2010, 『親の仕事と子どものホンネ』. 中里 英樹・市井礼奈訳 (中里 英樹「訳者あとがき」).
- ② 中里 英樹, 2009, 「男女共同参画政策とワーク・ライフ・バランス」野々山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社, pp. 343-346.
- ③ 中里 英樹, 2009, 「少子化対策と家族福祉」野々山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社, pp. 347-350.
- ④ ひょうご震災記念 21 世紀機構少子・家庭政策研究所, 2009, 『仕事と家庭生活の両立支援の推進: 調査研究報告書(平成 19 年度)』ひょうご震災記念 21 世紀機構少子・家庭政策研究所. (「第5章 雇用分野における男女共同参画に関する実態調査」を中里 英樹執筆)